

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

日々開発されるケーブルテレビ関連機器を、技術スタッフが
厳しい目でチェック! 実用性に焦点を当てて報告します。

No.
3

ケーブル技術スタッフの機器チェック!

「コンセント」「表示プレート」「電源タップ」

多摩ケーブルネットワーク(株) 技術部課長代理・安高德仁

今回は、ヘッドエンドで使用する電源配線の関係や、便利な配線行先プレートについて
紹介したいと思います。

摂津金属工業製「接地 2P コネクタプラグコード DH シリーズ」

ヘッドエンドでサーバーやスカパーの業務用 IRD など電源として使用されているのが、接地 2P コンセント電源ケーブルであるが、付属でついている電源ケーブルはどれも 1.5m ~ 2m とかなり長くヘッドエンドでは取り回しが悪く束ねなければなら

ないケースが多々ある。電源コードを束ねると電流が流れたとき熱が発してしまい、放熱させるために電源コードは必ずほどこいた状態で使用するのがよいとされている。ケーブルテレビ局のラックをいろいろ見ているとレールタイプの AC パワーダクト

と呼ばれる電源を利用ケースが非常に多い。機器と電源までの長さが短くなるため、どうしてもコードを束ねてしまうことが発生する。

そこで摂津金属工業製の接地 2P コネクタプラグコード DH シリーズの 30cm タイプをスカパーの IRD やサーバーに取り入れた。

非常に取り回しがよく、コードの放熱もほとんどない。また邪魔な電源コードが減ったことで、トラブル時の対応や配線なども楽にできるようになった。価格は定価で 30cm が 1,280 円、50cm が 1,350 円となっている。



未来工業製の表示プレート

先日部材調査の目的で「2009 電設工業展」に行った際、新製品として未来工業製の表示プレートが展示されていた。

いままでは配線の行先名称がわかるように丸札を付けていたが、デジタル化やノード分割により同軸ケーブル数が多くなっている。また、ヘッドエンドでは丸札を結ぶのが難しく、記入したものも見づらくなっている。

未来工業のプレートはラベルライター等の 9x20mm に対応しワンタッチでケー

ブルに取り付けができる。色別になっているため上り、下り、〇〇用など用途にあわせて識別できる。担当者によると 4C ケーブル用の表示プレートの要望も多く発売に向けて検討しているそうだ。当社(多摩ケーブルネットワーク)でも発売後に導入したいと思う。

型番は、
<GKF-5C- □>□には、R(赤)、W(白)、Y(黄)が入る(同軸ケーブル 5C 用)
<GKF-LAN- □>□には、R(赤)、W(白)、

Y(黄)が入る(LAN・USB ケーブル用)



幕張メッセであった「Interop2009」のマクニカブースにて

ラリタンジャパン(株)のリモートアクセス型の多機能電源タップが展示してあった。

最近ではデジタル化による改修などでラックにもやみに機器を増設すると UPS の電力不足に陥る場合がある。ラック用の消費電流量電圧、温度の測定ができる製品は市場にたくさんあるが、この機器は電源のポートごとに電力量を測定でき、各機器ごとに電流や消費電力のログも収集することもできるようになっている。

またデジタル機器や IRD によくあるフリースがなかったとしても、ネットワーク機能を

備えている電源タップのため、特定のポートを指定して電源の OFF/ON によるリセットが遠隔でできるようになっている。そのためヘッドエンドと自宅が離れていても即時対応できる。

オプションでセンサーも発売されており、ラック周囲の温度や湿度を測定することによりラック内環境を遠隔にて確認することができる。

九州のケーブルテレビ局も導入実績があり、サーバーの追加があった場合などでも緻密な電力値計算などで消費電力を平均化するという作業に役立っているとい

う。カタログ値ではない実際の電力値にて適切に電力配分ができるからだと思われる。

